

秋学期の振り返り

12月18日、最後の履修科目のFinal Examを終えたところで秋学期が終了した。夏休み期間、私は英語学校で英語科目だけを履修していたが、秋学期では英語の授業に加えて心理学の授業も履修した。また、課外活動にも参加し、充実した学期となった。

心理学の授業を通して私の英語力は向上したと実感している。9月の時点では教授の話聞いても全く理解できず、チーム討論をする時も発言することができなかった。その最も大きな要因として学問英語の勉強不足が挙げられた。例えば、それらは心理学における重要な理論などである。学問英語を日本語に翻訳してもその意味がわからず、教科書を読んだり、他の学生や教授に聞いたりして少しずつ意味を理解できるようになった。

さらには学期が始まった当初、教科書をどのように読むと効率が良いかわからず、1文章ずつ丁寧に読んでいた。しかし、それでは効率が悪く、時間がかかり、結局のところ理解すらできていなかった。しかし、学期が終わった今では教科書のどの部分が重要であるか、どのような順序で分厚い教科書を読むべきかわかった。またそれを実践することができた。例えば一つの章は大きく分けて導入、本文、結論で構成されている。最初に導入部分を速読し、その章で述べられていることをつかむ。その時にわからない単語があっても調べることはしない。次に結論を読む。結論部分ではその章で述べられている心理学上の重要人物や理論などが簡潔に描かれている。それを理解できたら場合、その章を読むのは終わりである。もし結論部の中で分からないことがあれば分からない部分だけを本文から抜き出して理解すれば良い。このような文章構成は教科書だけに限らず、論文などでも同様だ。最終的に学問英語を身につけることができたことは非常に嬉しいと感じている。また、それは留學生活で達成すべき一つの目標でもあった。

学期の最後にはFinal paperとFinal Examがあった。それらはその学期で学んだことを全て盛り込んだプロジェクトであった。Final paperでは「アメリカ人の離婚に対する態度」について記述した。心理学の授業で学んだことをFinal paperで記述できたことは満足に感じている。また、今後論文を書くための自信にもつながった。それはFinal Examも同様であった。最終的に心理学の授業について英語で理解できたことに達成感を感じている。

下半期の振り返り

2015年の下半期を振り返る。6月にアメリカに来て様々な体験をし、様々な発見から多くのことを学んだ。留学の目標であった英語力の向上も満足のいく程度にまで進歩した。日常会話から学問英語まで様々な種類の英語を学び、現在も充実した留學生活を送っている。また私の留學生活が充実したものとなっている理由の一つとして周りの人とのつながりが大きいと考えた。学生や教授など様々な人と会い、会話をすることで新たなことを学び、発見することができた。

1月の目標

2016年の1月には「インターセッション」という冬休み期間を利用した短期集中授業が行われる。その授業は3週間で専攻分野の中からあるテーマを決め、調査研究し、発表するという内容だ。私はその期間で、より高度な学問的な英語を身につける。過去の研究論文を自分なりに読み解き、考えることができるようになることを目指す。特にコミュニケーション心理に関する文献や論文について可能な限り読み、将来の研究に役立つように要点を理解する。